



この会報の愛称「アイム」は、鹿児島商工会議所ビルの愛称と同じです。自己紹介の言葉「I・m・・」は、出会いの始まりです。「I」にはインフォメーション・インテリジェント、mにはメトロポリス・ミートの意が込められています。

contents

- 2 **かごしま春祭大ハンヤ盛大に**
～鹿児島島の街に ハンヤ賑わう～
- 4 **鹿児島からもっと海外へ!(上海編)**
～今、最も元気で、熱気溢れる街～
- 6 **‘10 TALK**
株式会社 商工組合中央金庫 鹿児島支店 支店長 藤波 靖夫 氏
- 7 **会員さんクローズアップ**
韓国むら 代表 深井 博 氏
- 8 **商売繁盛と無病息災を祈って**
7月24、25日に“おぎおんさあ(祇園祭)”開催!!
- 11 **フォトニュース**
鹿児島商工会議所青年部 卒会式 / 渋谷・鹿児島おはら祭
- 12 **2010年度版 中小企業白書**
～ピンチを乗り越えて～
- 14 **経営相談ガイド**
- 15 **部会活動報告**
情報・サービス部会 / 工業部会
- 15 **インフォメーション**
映画「半次郎」シール発行 / 中元大売出し参加店募集 / 会報「アイム」広告チラシ同封サービスのご案内
鹿児島商工会議所ホームページ バナー広告のご案内 / 会議所スケジュール
- 19 **新入会員紹介**
- 20 **がんばってます商店街**
緑ヶ丘町商店街通り会 みどり会

— 今月の表紙 —

かごしま歴史紀行

長崎大学環境科学部准教授 深見 聡



所在地
潮音館の石蔵(鹿児島市清水町)

潮音館の石蔵

潮音館の名は、かつてここにあった寺院・潮音院に由来する。

潮音院は、1638(寛永15)年に大乘院(現在の清水中学校一帯)の末寺として創建された。一時荒廃していたものを覚恵和尚が再興し、その後、潮音院きっての徳僧として知られるようになった。密教関連の書物を多く執筆した学者でもあった覚恵和尚は、高野山金剛峯寺の修行僧らから「善作の書」として重宝されたという。近くの多賀山付近から潮音館のあるあたりは、かつて景勝地・田之浦として知られ、城下町方面への眺望は、「薩隅二州の腹に入り、一大内海となり、湖の如し、此浦其西岸に在り、潮来れば江上白く、日落れば天地青し、煙船其間に往来して、頗る趣を資く」と記されるほどであった(1843年刊行『三国名勝図会』)。

廃仏棄釈前の幕末期に姿を消し、その跡地には重富島津家の別荘がおかれた。1918(大正7)年に米蔵として建造されたのがこの石蔵である。久しく未使用となっていたものを、1990年に改装がなされカフェとして新たな息吹が吹き込まれた。

妻の上部には、丸に十の字を施した石がはめ込まれ、窓のひさしになっている椀石(窓と水平に渡された石)などの石材加工の高い精度が評価され、2007年、国の登録有形文化財となった。



2日間の祭りを締めくくる感動のフィナーレ

鹿児島の街に ハンヤ賑わう
かごしま春祭り大ハンヤ盛大に

鹿児島の春の風物詩「かごしま春祭大ハンヤ2010」（かごしま春祭振興会主催）が4月24日（土）、25日（日）に開催された。今回は新たに設けた山下小学校体育館の一次審査会場の他、メイン会場の天文館公園や、天文館アーケード、中央駅前など市内全13会場で熱気溢れるハンヤの演舞が繰り広げられた。

10回目となる今年は、県内はもとより、九州各県や広島県などから、過去最高の2日間で延べ約102チーム1,400名が参加し、踊り手の息の合った演舞が繰り広げられた。



参加チーム全員での総踊り

4月24日（土）正午、市内11ヶ所の会場で前夜祭がスタート。前夜祭参加の31チームが、ウォーターフロントパークや中央駅東口広会場など各会場を移動しながら、華やかな大ハンヤの演舞で観客を沸かせた。

また、山下小学校体育館の審査会場には、グループホーム入居の高齢者の方々を特別に招待。迫力のある演舞に間近で見入っていたが、とりわけ、大きな旗をためかかせて踊る「あっぱれ青組」の演舞にはひととき大きな拍手を送っていた。

メイン会場では一般参加団体に加え、招待チームが演舞を披露。会場内にはフードコートも設けられ、たくさんのお客で賑わった。

ハンヤ大賞



乱翔舞DOC

準ハンヤ



上天草・慈秀



メイン会場の天文館公園



山下小学校体育館（あっぱれ青組）

4月25日（日）の本祭は、桜島や木市会場を含む市内の11会場で実施。桜島浴岩なぎさ公園会場では、県外から参加の12チームが錦江湾をバックに元気いっぱいしの演舞を披露し、地元観客の声援を浴びていた。

一方、メイン会場では、コンテストの一次審査を通過した15チームが、大ハンヤ大賞を目指して熱戦を繰り広げた。審査の結果、大ハンヤ大賞は「乱翔舞DOC」（宮崎県）、準ハンヤ大賞は、初出場の「上天草・慈秀」（熊本県）が選ばれた。

また、今回は春夏合わせて10回目という節目の開催でもあり、参加回数10回のチームを表彰した他、人気チームにWe Love天文館賞が贈られるなど、多くのチームが表彰を受けた。

ファイナレは、全参加チームと観客一体の、総踊りにより最高潮の盛り上がりとなり、2日間の祭りを締めくくった。



鹿児島からもっと海外へ！（上海編）

「今、最も元気で、熱気溢れる街」

鹿児島とつながる海外都市の一つである上海。現在、上海万博が開催され、世界から注目を集めている。その上海と鹿児島を結ぶ路線について紹介する。

鹿児島～上海線をめぐる動き

鹿児島～上海線が開設したのは平成14年8月。現在は週2便（水・土）が運航しており、鹿児島と中国を結ぶ貴重な交通手段となっている。運行しているのは、上海を拠点に世界主要都市へのネットワークを有し、日本（14都市）へ週282便を運航している中国東方航空である。

5月からは「より良い都市、より良い生活」をテーマに世界各国・各地域、企業が最先端のエコロジーや省エネ技術を展示する上海万博が開催されており、中国東方航空はそのメインスポンサーも務めている。

北京オリンピック（平成20年）の際は、四川省での大地震や、チベットでのデモなどの影響から搭乗率は思うように伸びなかったが、昨年からは徐々に落ち着きを取り戻し、今年の2～4月の搭乗率は6



万博仕様の機体

割近くまで持ち直してきた。

鹿児島支店の瀬戸口朋子支店長代理はこう語る。「ゴールデンウィークには、上海万博の効果もあり、早々に予約が満席となったため、いつも使用している定期便よりも一回り大きい機材を使用することになりました。お客様の予約数に合わせて使用機材の調整が出来ることはうちの強みです。せっかく鹿児島から直行便が出ているのですから、より多くのお客様に利用していただきたいです。」

また、同航空の搭乗客は観光を目的とした団体旅行者が中心であり、ビジネスでの利用は搭乗客の

1～2割程度である。「鹿児島には焼酎やさつま揚げ等、多くの特産品があります。中国のバイヤーを対象とした展示会や商談会など、今後の利用増加に期待したいですね。」と瀬戸口支店長代理は語る。

一方で、上海での鹿児島島の知名度は、まだまだ高いとは言えない状況だ。しかし、鹿児島には中国人にも喜ばれる要素がたくさんあると瀬戸口支店長代理は自信を覗かせる。

「澄みきった青い空や海といった自然の豊かさは、鹿児島ならではの魅力だと思います。まずは、『日本』、『九州』という形でアピールを行い、定期便のある鹿児島、自然豊かな鹿児島という売り込みをしていきたいです。」

さらに、今年7月からは中国人観光ビザの発給要件が緩和される。経済成長によって、海外への観光旅行に積極的になってきた、多くの中国人が日本へ足を運ぶことが予想され、今後の鹿児島島の地域振興において、鹿児島～上海線は重要な役割を果たすことが期待される。

熱気溢れる街、上海

現在の上海は、高層ビルが次々と建設され、外資系企業の参入も増え、ニューリッチと呼ばれる若い富裕層が増加するなど、中国経済の中心地として活気に溢れている。「しばらく行かない間に、新しいビルが増えていたり、大きな看板ができていたり、めまぐるしい変化が続いています。上海の人々は本当にエネルギーで、自分も元気をもらえるような気がしますよ。」

また、上海の空港入国管理当局統計によると、4月30日から5月3日の期間の入国人数は10・67万人で、昨年比プラス12%であった。特に、日本、韓国、アメリカの伸



上海万博マスコット“海宝（はいばお）”



万博会場全体図

びが目立ち、上海万博の開催に伴い、さらに賑わいを見せているようだ。今、最も元気で、熱気溢れる上海。上海万博は10月31日まで南浦大橋と盧浦大橋の間を会場に開催されている。この機会に一度訪れ、上海の熱気に触れてみてはいかがだろうか。



中国館イメージ図



日本館イメージ図

※画像 2010年上海万博ホームページより

●上海線ダイヤ(平成22年5月現在)

◇水・土曜日運航

鹿児島	→	上海
13:30	(MU762)	14:30
上海	→	鹿児島
09:55	(MU761)	12:40

※出発・到着時間は現地時間です
※機種・座席数は日によって変更することがあります

中国東方航空 鹿児島支店
〒892-084 鹿児島市西千石町1-1
鹿児島西千石第一生命ビル3階
TEL: (099)219-8888
FAX: (099)219-8887

鹿児島空港国際線利用者に対する便利な助成制度

団体旅行客対象(団体ツアー助成制度)

国際定期路線(ソウル線、上海線)等を利用して研修・視察や国際交流のため海外渡航する**6人以上**の団体・グループに対して渡航経費(国際定期路線等の航空運賃)の一部を助成します。

H22.4.1から助成対象が10人以上→6人以上に広がりました!

団体・規模	助成限度額 (片道利用の場合は半額助成)
一般団体	6~9人 2.5万円
	10~19人 5万円
	20~29人 10万円
	30人以上 15万円
修学旅行	5,000円×人数 (助成限度額:100万円)

ビジネス客対象(海外ビジネスツアー助成制度)

新たな海外ビジネス展開等を目的に、国際定期路線(ソウル線、上海線)等を利用して渡航先で開催される展示会や商談会等に**参加する方を対象に1人当たり1万円を助成**します。

- 【要件】
次のいずれかの目的であること。
①渡航先で開催される展示会又は商談会への参加。
②JETRO、金融機関など海外ビジネスを支援する機関等を通じて選定した個別企業等との商談。
※団体ツアー助成制度の要件に該当する場合は、本制度の対象となりません。



【お問い合わせ先】「鹿児島空港国際化促進協議会」事務局 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
鹿児島県企画部交通政策課内 TEL099-286-2459 FAX099-286-5533 ホームページ 鹿児島県>ホーム>社会基盤>道路・交通>国際線利用促進



●プロフィール 藤波 靖夫 さん

1960年 広島県呉市生まれ
 1984年 早稲田大学政治経済学部卒業
 ㈱商工組合中央金庫入庫
 2006年 同庫 秋田支店支店長
 2008年 同庫 本部 業務推進部
 2010年 同庫 鹿児島支店支店長就任

「中小企業による中小企業のための金融機関として」

～経営者と膝を交え、課題解決に努める～

Q 今年4月に鹿児島支店長に就任された抱負を聞かせてください。

A 鹿児島支店は、昭和22年に業務をスタートし、多くのお客様と深い信頼関係をいただいております。今年で63年という長い歴史を持つ支店の一つとなりました。

日本経済は、景気の二番底を回避したと報道されていますが、地方の中小企業の経営者の方々と接すると、依然として厳しい経営状況が続いている現状を実感せざるをえません。

このような厳しい時代に、地方の中核都市である鹿児島支店に赴任してきた責任の重さに非常に気が引き締まる思いをしています。

私も商工中金としては、少しでも経営者の皆様のお力になれるよう、全力で支援を行っていかねばならないと強く感じています。

Q 商工中金の強みはどのようなところですか？

A 私ども商工中金は、全国に102店舗（国内99、国外3）を構え、組合数は、24,538団体（組合員数は推定約300万社）にもなり、全国規模のネットワークをもっております。

金融面では、設備投資や長期運転資金をはじめ、手形割引などの短期運転資金まで、中小企業経営者のニーズに合わせた、様々な金融支援を行うことができます。

また、金融面だけでなく、環境対策や企業間の連携支援など、企業が抱える諸問題にあらゆる角度から解決できるよ

うなメニューがあることも、大きな強みだと考えています。

Q 鹿児島の印象はいかがですか？

A 経営者の方々が、非常に元気があるなと感じました。明治維新に、日本を動かす人物を輩出してきたエネルギー溢れる土地柄が関係しているのかもしれない。

また、鹿児島が、黒豚やさつまいもなどに代表されるような農業県であるのももちろんのこと、桜島や温泉、離島など

魅力ある観光資源に溢れていることに驚きました。

これらの魅力を、県外に積極的に紹介し、鹿児島の一体的な発展につなげていくことが、中小企業の活力を取り戻すことにつながるのではないかと考えています。

来年は、九州新幹線の全線開業という大きな契機を迎えます。我々と致しましても、地元銀行様や関係団体の皆様と連携しながら、地域の活性化のために努力して参りたいと考えています。

会員さんクローズアップ



韓国むら 代表
ふかい ひろし
深井 博 さん

店の入口を開けると、キムチの良い香りが漂い、珍しい韓国の食品の数々が目を引く「韓国むら」。韓国人の奥さんが作る本場の韓国料理をはじめ、韓国語教室や翻訳・通訳に至るまで、韓国文化に関する幅広いサービスを提供している。

韓国にこだわった店づくり

「韓国」にこだわった店を始めたのは36歳の時でした。以前から、韓国出身の妻が作る本場の自家製キムチや韓国料理などが近所の方々に大変好評をいただいていたことがきっかけでした。

開店した当初は、店のことは妻に任せて、私は会社勤めを続けるつもりでした。準備のため、最初の一週間だけは、会社から休みをもらったのですが、開店と同時に、予想以



1番の人気メニュー「ビビンバ丼」

上の大盛況をいただいたことから、一週間の休みのつもりが二週間、三週間と長引かざるを得なくなり、意を決して、会社を辞め、店の仕事に専念することにしました。

韓国文化をより身近に

店のモットーは、「韓国の文化をより身近に、よりお気軽に」。その一環として、毎週土曜日に公民館で韓国語講座を開いており、生徒数は40人にもなります。

毎年一回の募集ではありますが、お陰様で沢山の応募をいただいています。月4回

の講座を月額1,000円で開催し続けているのが良かったのかもしれない。

また、韓国語の翻訳・通訳もお引き受けしています。昨今、盛り上がりを見せる韓国ブームを受けて、ホテルやゴルフ場、飲食店から韓国人観光客向けの翻訳・通訳のご依頼をいただくことが多くなってきました。

韓国のことなら「韓国むら」に

今後の夢は、皆さんにもっと韓国の魅力を知ってもらえるような店づくりをしていくことです。飲食や旅行、留学相談など、韓国に関する事なら、何でも分かる、という店舗づくりを考えています。

韓国の素晴らしい文化を「韓国むら」から発信していけるような店を目指して、これからも妻とスタッフで力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

◎ 店舗案内

- 【創 業】 2000年4月
- 【事業内容】 韓国弁当・キムチ販売、韓国語教室、翻訳・通訳
- 【住 所】 鹿児島市宇宿3-16-1
- 【定休日】 日曜
- 【営業時間】 10:00～21:30

〈平成 21 年のおぎおんさあの様子〉



ご神幸行列の先頭を行く傘鉾



昨年新調した神官山車



ご神幸行列を盛り上げる勇壮な神輿

【祇園祭ルーツ】
祇園祭は、今からおよそ千百余年前の平安京の時代、毎年のように夏に全国で大流行する疫病の惨害を免れようとして、当時の全国の国数に応じた六十六の鉾を建て悪霊を祓う神事を行ったことに由来しています。

鹿児島県の祇園祭は、江戸元禄時代ごろから行われ、庶民

全国各地で無病息災と厄除けを祈る祭りとして開催されている祇園祭は、鹿児島では特に親しみをこめて「おぎおんさあ」と呼ばれています。江戸時代に発刊された井原西鶴の「西鶴織留」のなかで、鹿児島島の八坂神社を信仰した町人が人助けで織物を買い上げたことをきっかけに商売繁盛したと記されており、そのようなエピソードから鹿児島島の「おぎおんさあ」は無病息災とともに商売繁盛を祈る祭りとして盛大に開催されています。多くの市民に親しまれている「おぎおんさあ」が、今年も7月24日、25日に開催されます。

商売繁盛と無病息災を祈って

7月24日、25日に「おぎおんさあ（祇園祭）」開催!!